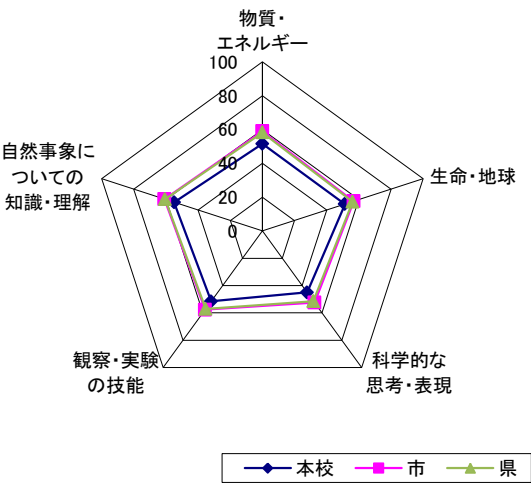


宇都宮市立横川西小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	51.6	59.0	58.3
	生命・地球	51.3	56.8	56.1
観点	科学的な思考・表現	45.0	52.5	51.4
	観察・実験の技能	51.5	57.6	57.0
	自然事象についての知識・理解	54.9	61.0	60.6



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○「閉じ込めた空気を圧すときの空気の体積の変化」の正答率は77.1%で市平均を6.7ポイント上回った。 ○「熱せられた空気は上昇することからエアコンの吹き出し口を下に向けると部屋全体が早く温まると推測できる」の正答率は68.8%で市平均を5.1ポイント上回った。 ●空気や金属を温めると体積が増加することを日常の事象に応用して推測することは正答率が低く、市平均を15ポイント以上下回った。 ●水が氷になることや沸騰することの知識を問う問題の正答率は市平均をすべて下回り、設問によっては市平均を10ポイント以上下回った。 ●電気のはたらきの知識を問う問題の正答率が30%程度で、市平均を10ポイント以上下回った。	・日頃から日常の事象に目を向けさせ、関心をもてるように指導していきたい。また、学習内容と日常の事象との関連について意図的に触れ、科学的な興味・関心を育てていきたい。 ・課題意識をもって実験・観察に取り組めるように指導するとともに、実験・観察から分かることを自分の言葉で表現できるように支援していきたい。 ・日常の事象と関連付けられる内容は、理解がよくできるので、学習のみで終わらず、身の回りの事象に視点が広げられる助言をしていきたい。
生命・地球	○「グラフから、気温とヘチマの茎の伸びとの関係」を説明する正答率は60.4%で市平均を5ポイント上回った。 ○「月の形の変化のしかた」の正答率は62.4%で市平均を8.9ポイント上回った。 ●季節ごとの動物の様子を問う問題の正答率は42%前後で、市平均を10ポイント以上下回った。 ●事象の理由を説明することは正答率が低く、市平均も下回った。「日なたにおいたピーカーのふたの内側に水滴が付いた理由」の説明は正答率が3.1%で市平均を5.4ポイント下回った。	・実験・観察等の目的やねらいを明確にし、ねらいに立ち返って考察できるように指導していきたい。 ・予想の根拠を明確にし、自己の経験や見聞、知識と理科的事象の関連が意識できるようにしていきたい。 ・覚えるべき内容がきちんと身に付くように、繰り返し復習していきたい。